

足立区教育DX推進プラン

目指す
児童・生徒像

考える！協働する！表現する！自ら学びを深めるあだちの子

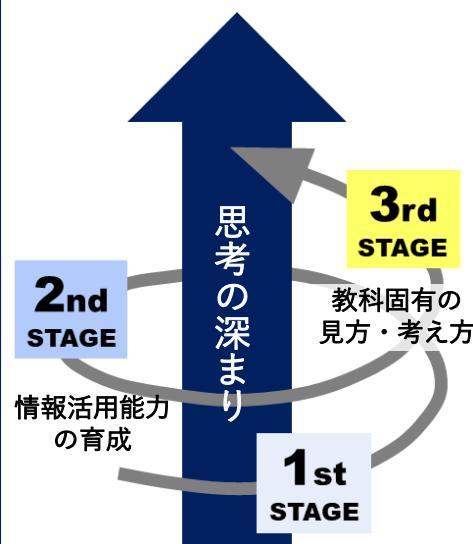
～子どもたちが自ら進んで学習に取り組み、友だちと話し合いながら、より深く理解していく学びの実現を目指します～



学び合いを通じて一人ひとりが思考を深める授業の実現

端末やアプリケーションに関する基本操作の定着により、それらの特徴を把握することで、データの活用・分析による学習進度や個性に合わせた指導、他者との話し合い活動の促進による課題を解決していく力の育成を段階的に進める。

これからの授業スタイル



1st STAGE まずはICTを使ってみる

- 黒板に紙で貼っていた写真等を児童・生徒の端末にデータで送る。
- 模造紙の代わりにクラウド上で、プレゼンテーション作成用のアプリケーションを活用したプレゼンテーションを行う。
- 配付用紙やノートの代わりにクラウド上で集計用のアプリケーションによる振り返りを行う。

→ ICTを使う習慣をつけて、授業が充実！

2nd STAGE 「ICTならではの」を試す

- 児童・生徒が考えをまとめるにあたり、クラウド上のホワイトボードアプリケーションで他の人の考えも参考にできるようにする。
- 児童・生徒一人ひとりの学習状況をクラウド上で表計算アプリケーションを活用してクラス内に共有することで、クラス全体のボトムアップを図る。

→ ICTを使うことで、授業の幅が広がる！

3rd STAGE 児童・生徒の学びを引き出す

- 児童・生徒一人ひとりが自分の課題を設定し、自分で決めた取り組み方で学びを深めていけるよう、ICTの活用をととして必要な支援を行う。

→ ICTを使うことで、児童・生徒の学びを深める！

主な取組

学校・教員

- 管理職がリーダーシップを発揮することによる学校全体としての活用促進
- GIGA推進校を各校が順番に担当する等による、教員がICTに触れる機会の意図的な創出
- クラウド上のアプリケーションやAIドリル等の活用
- 各校の段階に合わせた他自治体への視察等による活用策のブラッシュアップ
- 各教科の目的に沿ったICT活用の促進

児童・生徒

- 児童・生徒の情報活用能力の育成に向けた機運醸成事業（「あだちICTマスター」「足立タイピングチャレンジ」等）

教育委員会

- 学校・教員の段階に応じた研修会の実施
- ICT支援員の派遣 ● GIGA推進校と連携した実践事例の創出・区全体への横展開

活動指標（KPI）

- 以下の場面における、児童・生徒の週3回以上の端末活用
 - ① 児童・生徒が自分で調べる場面 100%(R8)
 - ② 児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面 80%(R8)
 - ③ 教職員と児童・生徒がやりとりする場面 80%(R8)
 - ④ 児童・生徒同士がやりとりする場面 80%(R8)
 - ⑤ 児童・生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面 80%(R8)

成果指標（「全国学力・学習状況調査」に基づく）	基準値(R5)	目標値(R8)
「小学5年生まで／中学1・2年生のときに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に肯定的な回答をした割合	小76.2% 中77.3%	小77.8% 中78.9%
「学級の友達／生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に肯定的な回答をした割合	小78.9% 中78.1%	小80.6% 中79.7%
「小学5年生まで／中学1・2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」に肯定的な回答をした割合	小79.9% 中72.2%	小81.6% 中73.8%



新時代の学びを支える環境づくり

端末の配備やネットワーク環境の構築等をととして、場所を選ばない学びの環境を維持する。

主な取組

- 教員、児童・生徒への一人一台端末の配備 ● ネットワーク環境の構築
- 児童・生徒の学習状況等を可視化できる環境の構築 ● 授業支援ソフト等の配備

活動指標（KPI）

- 端末利用に係る学校の回線速度の計測・把握 100%(R6)
- 十分なネットワーク速度の確保 100%(R7) ● 課題のある学校へのアセスメントの実施 100%(R7)
- 一人一台端末の常時活用を可能とするための十分な予備機の整備 100%(R10)



校務DXによる教員の働き方改革

スムーズな情報共有などによる授業準備や事務作業の効率化をととして、教員と児童・生徒が向き合う時間を確保する。

主な取組

- クラウド上のアプリケーションや外部システムを活用したスムーズな情報共有
- 生成AIによる授業準備や事務作業の効率化

活動指標（KPI）

- FAX・押印の原則廃止 100%(R7) ● 不合理な手入力作業の一掃 100%(R7) ● 生成AIの校務での活用 50%(R7)
- クラウド環境を活用した校務DXの徹底 100%(R8) ● 次世代の校務システムの導入に向けた検討の実施 100%(R8)



一人一台端末による学びの保障

不登校や教育相談希望の児童・生徒、学習活動等の支援が必要な外国籍の児童・生徒、障がいのある児童・生徒、病気療養児等の特別な支援を要する児童・生徒のうち、希望するすべての児童・生徒が必要な支援を受けられるようにする。

主な取組

- オンライン会議用のアプリケーションを活用した授業配信・教育相談
- オンライン上の翻訳アプリケーションを活用した多言語対応

活動指標（KPI）

- 希望する不登校児童・生徒への授業配信 100%(R8)
- 希望する児童・生徒への端末を活用した教育相談 100%(R8)
- 外国人児童・生徒に対する端末を活用した学習活動等の支援 100%(R8)
- 障がいのある児童・生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童・生徒の実態等に応じたICTを活用した支援 100%(R8)

※ 活動指標（KPI）については、「子供たちと教師の力を最大限に引き出すためのデジタルを活用した教育の充実」より一部抜粋。各指標の（）内は目標年度。